

地域の大豆栽培を受託し、担い手の育成・農福連携に取り組む ～ 小笠原 俊也 ～

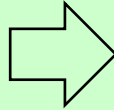
経営体の概要

事業完了年度：平成27年度

基幹作物：水稲17.0ha、大豆7.0ha

ねぎ0.6ha、ブロッコリー0.3ha

経営面積：自作地13ha、借地12ha、
作業受託55ha



現在：令和3年度

基幹作物：水稲17.0ha、大豆12.0ha

ねぎ0.6ha、ブロッコリー0.3ha等

経営面積：自作地17ha、借地12ha、
作業受託55ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成9に後継者として就農し水稲やメロン等の栽培を行っていた。平成15年の天候不順を察し、全水稲作付ほ場を大豆栽培に転換し冷害の影響を免れた。その後、地域の転作大豆が拡大する中、平成18年4月に任意組織「つがる21生産組合」を設立し大豆の作業受託を開始、受託面積を拡大してきた。

また、土地改良事業により用排水路が整備され、用水の安定供給と額縁明渠等による排水が効率的となり水田畑利用に寄与している。

営農改善のポイント

①経営規模の拡大

大豆の作業受託を始めた平成18年4月に構成員7名で任意組織「つがる21生産組合」を設立した。当初10ha程度の受託だったが、補助事業を活用して農業機械を整備し受託面積を拡大。現在は55haを受託している。また、地域で離農した農家から農地を取得し経営規模を拡大している。



大豆のほ場

②担い手の育成・確保

元研修生1名を雇用し、ねぎやブロッコリーの栽培技術を習得させている。令和4年からは水稲にも携わらせ年間の作業体系等の習得を目指している。令和元年からは農福連携にも取り組み障害者の雇用の場を創出している。



ブームスプレーヤー

③品質の向上

水稲では特別栽培米を2.7ha栽培しており特徴的な取組として木炭を混ぜ込んだ堆肥を散布している。堆肥は耕畜連携により取得し、木炭は地域の業者から間伐材の木炭を取得している。堆肥に木炭を混ぜ混ん込むことにより、消臭効果、土壌微生物の拡大、土壌phの改良、土壌への炭素貯留に役立っている。



ねぎのほ場

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業

関係市町：弘前市、五所川原市及びつがる市

受益面積：10,580ha

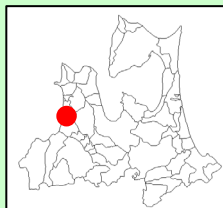
事業期間：平成8年～平成27年

事業目的：用排水改良

主要工事：頭首工1箇所、貯水池1箇所

揚水機場2箇所、排水機場5箇所 等

位置図（青森県）



岩木川左岸地区

<問い合わせ先>

東北農政局

農村振興部農地整備課

電話：022-263-111

内線（4460, 4459）

（令和3年度調査時点）